



中学校の

武道必修化について、
生活支援バスについて

古賀 龍彦 議員

問 武道具の費用負担について伺いたい。

答 武道具の費用は保護者の負担はない。

問 指導員の配置計画について伺いたい。

答 空手道は専門家を招へいする。柔道は段位を持つ先生がいるので事前に武道の講習を受け授業を行う。剣道は外部から師範等を招へいし、教員と一緒に授業を行う予定である。

問 柔道競技の安全対策について伺いたい。

答 安全対策は、畳のずれを木枠で固定し、体操用のマットを敷く等対策を考えている。具体的指導マニュアルを作成中である。

問 生活支援バスの利用状況を伺いたい。

答 23年11月からの5カ月間で、利用者数は延べ5千228人、月平均43.6人である。1台当たりの乗車率は、45.4%と増加している。満員で通過する場合、社会福祉協議会が別の車で迎えに行くように対処している。

問 車の色や「愛称」について伺いたい。

答 現在の車体は紺色で暗いが、塗り直すと費用がかかるので、目立つ色のステッカーをルート別に貼る等検討したい。「愛称」を車ごとにつけるとか、親しめる工夫をしたい。

問 有料広告募集について伺いたい。

答 車体のスペース等を考慮し検討したい。



中学校における学校

適正配置計画について

岡 秀昭 議員

問 中学校における学校適正配置計画の研究とその後の経過状況等について伺いたい。

答 中学校生徒数と学級数は、19年度は1千169人、38学級（一学級の人数26～39人）、24年度は1千18人、38学級（20～40人）で、29年度には800人、28学級（20～40人）を見込み、その後も緩やかな減少を予想している。

学校規模は一校当たり、19年度は6～10学級、24年度は6～9学級、29年度には6～7学級で推移する見込みで、国が示す適正規模は12学級以上18学級以下が標準である。

今後は学校規模の変化による学習活動、友人関係の深まりや広がり、生徒の学力、体力、コミュニケーション能力、社会性等の育成に対する効果、さらには、学校行事や部活動等、校務運営や職務に与える影響など学校の在り方とその最適化の施策を検討する必要がある。

今後の学校適正配置計画を検討する上で、学校と家庭、地域社会との交流・連携により緊密な関係を構築しており、地域住民の意見も十分に聞く必要がある。今後、国、県、他市の動向及び本市の児童生徒数などの推移を予測し、学校づくりは地域づくりやまちづくりの面もあるため、協議検討を進めたい。



新橋川改修計画について

石橋 正毫 議員

問 新橋川改修計画見通しについて伺いたい。

答 現新橋川の改修を進め、新橋水門に排水ポンプを設置後、花宗川を分流するもので、堤防のかさ上げなどにより、氾濫の危険性はかなり改善されると考える。

今後、具体的な整備計画の策定後、地元のご理解をいただき事業の推進に努めたい。

問 新橋水門、中古賀水門、上野地区樋管への排水ポンプ設置について伺いたい。

答 新橋水門ポンプは毎秒8トン排出の規模だが、今後浸水被害の状況により増設もある。中古賀水門はポンプ設置実現に向け全力をあげる。上野地区樋管へのポンプ設置は、県に要望し設置を視野に入れ検討いただいている。

問 向島木之元付近の花宗川堤防の強化について伺いたい。

答 県の説明では堤防高は70センチ程の余裕があり、毎秒150トンの水が流れるとしても、水位上昇の危険性は少ないとのことだが、水上防上重要な地点だと認識しており、この部分の堤防強化にはしっかりと対応したい。

問 皇后殿片葉葦植生保護について伺いたい。

答 河川改修で片葉葦の保存が難しくなれば、きちんと保存する手立てを取りたい。